

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102469		
法人名	有限会社 あん		
事業所名	グループホームあん		
所在地	奈良市西千代ヶ丘3丁目7番9 - 2号		
自己評価作成日	令和元年5月8日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kainokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiqvosyoCd=2970102469-00&ServiceCd=320&Type=
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町4番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和 1年5月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地の民家を利用した家庭的な環境や土地柄で、少人数ならではの細やかな行き届いたケアを行っている。また、食事も利用者様の好みや季節の食材を取り入れ、手作りならではの暖かい家庭料理を提供している。日々の体操や趣味・レクリエーションを行い、利用者様が退屈されないよう気配りをしている。また、利用者様同士で昔話やテレビの話題に会話ははずみ楽しく過ごして頂いている。ご家族や近隣の方々との交流も大切にし、毎年の行事として「バ・ベ・キュー大会」を開催し、沢山の方が参加して下さい、楽しい時間を過ごし交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は、落ち着いた住宅地の中にあり、開設当初こそ地域との相容れないものがあつたが、今では、代表者の基の自宅ということもあって、地域に受け入れられている。1ユニット6人の小規模施設であり、代表者の温厚な性格と利用者とのかかわりを大切にする姿勢は、職員から篤い信頼を得ている。「家庭的で楽しく仕事ができる！誇りに思う！人間関係が良い！仕事は金銭だけではない！」とまで言われ、永年勤務する職員が多い職場である。利用者も長期間にわたり利用している方が多い。重度化が進み車椅子の利用者が増加する中で、外出が困難な状況になっても、可能な限り美容院や買い物に出かけ、馴染みの人との時間が持てるように心がけ、地域社会に根付いた暮らしを大切にするという理念に沿った支援と、職員は利用者の刻々と変化する状況をよく理解し、行き届いた質の高い支援を行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、馴染みの人との時間を持てるよう、「地域住民の方々とのふれあいを大切にし、その人らしく穏やかに心豊かな生活のできる環境を目指します」を理念に、全職員で地域社会から閉ざされない生活を支援している。	入職時には理念と理念に添った支援の方法について詳しく説明している。永続勤務者が多く、理念は常に共有され、日々の介護現場で、理念に添った支援が実践されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会会長や近隣の方々とは施設の行事に参加して頂き、日常生活でも関わりが持てている。5年前には代表者が自治会役員をしてから、今年も1回OB会として当時の役員の方々との交流を図っている。また、自治会同好会に参加してからは、より多くの方々とお話をする機会が増えている。	代表者の自宅を改装して開設した事業所であることで、代表者が自治会役員を引き受け、退任後も関係者と交流を継続しているなど、地域と強い繋がりを持っている。事業所行事のバーベキュー大会に地域住民や関係者を招き、利用者と共に楽しみ、交流している。また、大倭神社のお田植祭りや、介護施設「とみのくに」が開催する秋祭りに参加するなどの交流も盛んである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々、日常的に認知症高齢者との交流を図っていく中で、実際に認知症高齢者の様々な症状を見て頂く機会を多く持ち、支援があれば心豊かな生活が送れることを理解して頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	富雄地域包括、自治会役員、年2回の行事にはご家族も参加して頂き6回開催しました。平日の運営推進会議にはご家族の都合もあり参加して頂くのは難しいが、行事には皆さん参加して頂き、事業所の取組を説明して意見を頂き、サービスの向上に努めていきたいと思っている。今後とも6回開催していく予定である。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、自治会役員の参加で年6回開催している。バーベキュー大会と同時開催した時は家族の参加があったが、それ以外の開催には家族の参加が得られていない。会議では現状報告や話し合いが行なわれているが、活発な意見交換まではいたっていない。	年6回の運営推進会議は形にはなっているが、マンネリ化が見られ、自治会役員だけでなく地域住民を対象にした「認知症の知識と理解」や「認知症ケアの方法」など発信の拠点とした積極的な働きかけを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	奈良市主催の説明会等には全て出席し、提出書類などがあれば出来るだけ持参し、その折りに制度上不明な点などの説明を受けたり、指導を仰ぐようにしている。	活用し、担当部署に出向いている。地域包括支援センターとは密接な協力関係が構築されている。地域包括支援センターの勤めで、地域のグループホーム4施設合同の情報交換会を2年前に始める等実践的な活動が生まれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が身体拘束に当たるかを職員全員が把握し、玄関や居室の施錠も行わず、精神的な状態を常に把握した声掛け、見守りにて安全で安心な生活が送れるようなケアを行っている。	利用者の重度化が進み、車椅子から突然立ち上がり転倒するリスクが増している状況であるが、職員は身体拘束をしないケアをよく理解しており優しい支援に取り組んでいる。リビングでの見守りを職員同士の声かけを徹底し連携を図り安全に配慮している。家族へは利用開始時と比べ状況が変化(ADLの低下)する度に、リスクの説明を繰り返し行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者を中心に、精神的虐待・身体的虐待とはどんなことがあるかを会議時に具体的事例をあげてスタッフと共に話し合い、研修を行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度については、学ぶ機会を設けている。今後、地域との関わりや入居者の中で対象となられる方があった場合にはいつでも対応していける体制は整えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、代表者・管理者から納得されるまで十分な説明を行ってから契約を交わしている。退所されるケースで他施設の情報を提供したり、話し合いを持つ等、ご家族の不安や疑問点には十分な説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者の声をスタッフ間で話し合ったり、ご家族が面会に来られた際には、生活状況の報告をすると共に不満や要望を積極的に聞くようしている。居室には連絡ノートを設置して、意見等をいつでも記入して頂けるようにしている。また、苦情相談窓口もサービス内容説明書に明記している。	利用者の重度化が進み、意見や要望を聴くことが困難になってきているが、利用者の言動から職員の気付きを話し合い、重要なことは業務日誌に記録し、家族にも情報を提供している。また、家族の来訪時には、意見や要望を積極的に聴いている。各居室に連絡ノートを置き、意見や思いの集約を図っているが、寄せられる意見は少ない。	前回の目標達成計画に『家族とゆっくり話す時間をとること』を課題としているが、成果がでていない。運営推進会議に家族が参加し意見や要望を言える環境づくりの取組みを期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はいつでも職員の意見を聞けるよう、日頃より話し合いの機会を設けている。また、職員から改善箇所や要望があった時は柔軟に対応している。	代表者は家庭的な雰囲気を重視し、職員が話しやすい環境を作っている。勤続年数が長い職員が多くお互いに気心が知れた間柄で、毎月開催される職員会議は全員が参加し、意見交換が行われ、議事録を作成している。日々の業務の中での意見や提案が口頭で行われるケースが多いが、重要な要件については連絡ノートに記録し職員全員が共有しサービスに活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者も職員と共に現場で仕事をする中で、個々の職員の勤務状況が把握できている。個々の努力や実績については個人面談を行った上で評価を行い、定期的に給与に反映させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の資質向上に向けて、積極的に研修に参加できるように努めている。また、毎月全員参加の会議にて、具体的事例をあげ意見交換をしてより良いケアが出来るよう話あっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富雄地域包括支援センター担当の4施設のグループホームと情報交換会を開き、見学やテーマにそって情報交換会をしていましたが、今は小休止になっていますが、いつでも情報交換は出来る関係にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談があると、事前情報収集のため、ご本人との面接・面談を十分に時間をとり、思いを傾聴し受容しながら、本人が安心できるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時には、プライバシーに配慮しながら、ゆっくりと思いを傾聴し、気兼ねなく話せる雰囲気作りを心がけている。納得いくまで何度も話合いを持つことで、信頼関係を築いていくよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的にグループホーム利用目的での相談となっているが、その時の本人と家族の状況をお聞きした上で、他のサービスも紹介し納得のいく選択をしていただけるような対応を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に入居者の人格を尊重し、年長者への尊敬の念を持って、ご本人の意思を尊重し、一人ひとりに合った対応をしている。理念にも掲げたようにその人らしくを大切に、ご本人の思いを大切にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との良好な関係が維持できるように支援することを心がけ、誕生日、面会、行事などで共に過ごす時間を多く提供できるようにしている。また、職員と家族で共にご本人の自立した生活を支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のこれまでの生活が可能な限り継続できるように、面会・外出・外泊等は自由に行えるように支援している。ご家族の面会時は、居室でゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。	施設での生活が長くなると、家族以外の知人の来訪も少なくなるので、訪問美容を利用するよりも外出を兼ね、美容院に出かけて地域社会との繋がりを大切にする支援や、居室は利用者がこれまで馴染んできた品々や写真などを置くようにし、ADLに合わせた支援に心掛けている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の能力に応じて、共同生活が共に支えあえる関係づくりを職員が関わることで支援している。共同作業や家事の炊事・洗濯などお世話できる人・される人が喜びを感じたり、互いを思いやる関係ができていく。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、本人の状態に応じて最良の施設が選択できるように情報提供を行い家族への支援を行っている。また退去後も、その後の様子をお聞きし、不安や相談にはいつでも対応できる関係をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やケアプラン作成時には、ご本人やご家族の意向をお聞きし、どんな暮らし方を望まれているか把握している。また、日々の会話の中でも思いを傾聴し、応えていっている。	本人や家族の意向はフェイスシートで把握しているが、最近は本人の思いや意向の把握がしにくくなっている。その場の本人の反応をまずは受け入れ、その後適切に対応をすることに努めているが、家族に意向を聴くケースが多い。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談の折には、ご本人を取り巻く多くの方から、今までの生活の状況をお聞き把握できるように努めている。また、入居後も必要に応じて、ご本人やご家族から話を聴くようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で心身の状況を把握し記録することで、一人ひとりの生活のあり方や心身状態、残存能力を把握し、よりよい支援につなげている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態に変化があればその都度、また、大きな変化が見られない場合は6ヶ月でモニタリングを行い、支援の必要な課題を検討している。主治医・ご家族・職員からの意見を聞くことでより良いプランに繋げている。	フェイスシートや入居後の職員全員の話し合いによる検討の結果を基に介護計画を立てている。ADL中心になりがちだが、本人が好むレクリエーションを必ず介護計画の中に入れるようにしている。6ヶ月毎にモニタリングを行い介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身の状態は、全職員が記録に記入し、変化や気づきは伝達できるようにしている。また、勤務に入る前には記録に目を通し、状態の把握をしている。大きな変化はケアプランの見直しに繋げている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単体のグループホームであるため、事業所独自のサービスが展開できる。通院支援や外出支援も柔軟に行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができる	自治会や近隣の方々との協力を得ながら、社会交流を開きささないよう、地域に出かけることで、安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、または状態に変化があった場合に、本人・ご家族の希望を優先し、かかりつけ医を決定している。また、当施設では嘱託医が訪問診療に来ていただいているが、状態に応じて適切な連携医療機関やその他の病院を紹介して頂くなど、柔軟に対応している。	月2回嘱託医の訪問診療(内科、歯科)があり、内科医は、夜間や緊急時にも対応してもらっている。非常勤の看護師が利用者の体調管理を行っている。認知症の専門医は確保できていないが、入居前に診断を受けた認知症医院からの処方箋で嘱託医から投薬を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支	非常勤で週1回看護師が勤務している。24時間体制を取っているため、緊急時の対応や利用者が適切な受診を受けられるようになっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合には、その医療機関に出向き、病院関係者と情報交換を行い、退院に向けたアプローチを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し、入居時に文書にて説明している。病状によっては早い段階から今後の方向性を話し合い、できるだけ本人・ご家族の意向に沿えるように関連機関とともに努めている。また、事業所として、できること・できないことの見極めは本人・ご家族の意向を尊重しながら、その都度相談している。	利用開始時に「看取りの指針」を本人や家族に説明している。重度化した時には、協力的な嘱託医と看護師、時には訪問看護ステーションと連携し、看取りの体制を取っている。これまで4名の看取りを体験しているが、今年看取った方はいない。重度化・看取りについて定期的な職員研修は行っていない。	看取りのケア、家族への支援、職員の心身のケアなどに関する看護師による職員研修の実施が望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って、緊急時の対応については、全職員で研修を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、災害時に備えている。また、火災報知機・火災通報機・スプリンクラーを設置している。近隣の方にも、いつでも協力を得られる関係づくりができています。	年2回避難訓練を実施し、緊急連絡先を事務所と台所に掲示している。オール電化の住宅でスプリンクラー、緊急通報装置は設置されている。自治会の避難訓練にも参加し、避難所確認もしている。水、乾パンなど3日分の備蓄がある。	避難訓練を実施しているが、歩行可能な利用者だけの参加で、夜間想定訓練も充分とは言えない。実際に避難にかかる時間やマニュアルの再確認などが行われることを希望する。また、居室や共用空間の家具等の転倒防止策について点検し早急に対策されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の意義を全職員が理解し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応や言葉かけをするよう全職員で取り組んでいる。	一人ひとりの性格や生活習慣を考慮し、声掛けを気さくにする場合と敬語を使用する場合を使い分けている。また、声掛けのTPOをわきまえ、決して傷付けることがないように言葉遣いに気を使っている。特にトイレ介助においては、転倒防止のため、トイレ内に付添って見守るケースが多いが、自尊心を損なうことのない対応を心掛けている。全ての居室に、ベッドからの立ち上がりを察知するセンサーを設置しているが、ご本人の安全の確保とともにプライバシーの保護も慎重に対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、話しやすい関係づくりに努めるとともに、利用者様の能力や趣向に合わせ、自由に思いが表現できる生活が送れるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそっ	起床が早い方や夜の遅い方、昼間は居室でのんびり過ごしたい方など、できるだけ本人の今までの生活のペースに合わせた暮らしが送れるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は本人と相談しながら行い、美容に関しては、近隣の美容室に出かけている。また、必要な化粧品等の買い物にも出かけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で聞き得た情報から好みや、旬の食材をできるだけ採り入れ、バランスのとれた献立を立てている。また、準備や片付けなど出来る方には職員と共に今迄は行って来たが、最近では利用者のADLも悪くなり、出来にくくなっている。	利用者から聞き取った嗜好を考慮したメニューで、季節の彩り豊かな野菜を取り入れた手作りの食事を提供している。代表者が買い出しに行くので、時にはお刺身やタタキが提供され、行事食もちらし寿司やケーキなどが手作りされ利用者に喜ばれている。自家菜園の野菜を収穫、食卓にあげ話題を作っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立をたて、必要な栄養が摂取できるように努めている。また、日々の個別記録に食事量・水分量を記入し、健康状態の把握に努めている。体調に応じては、栄養補助メニューも柔軟に対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを確実にやっている。また、義歯については、毎日消毒を行っている。提携歯科医に毎月検診に来ていただくことで、口腔内の状態も把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンや尿意があるときのサインを把握しトイレでの排泄を支援している。誘導が必要な方には、定期的な誘導を行い、声かけも本人の羞恥心に配慮しながら行っている。	各利用者の排泄パターンやサインを把握し、適宜にトイレ誘導を行い自然排泄を支援している。利用者全員がリハビリパンツとパットを着用し、オムツ使用の方はいない。夜間にポータブルトイレ使用の方が3名おられる。各居室に立ち上がりセンサーを付けており、感知すればすぐに駆けつけるようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、バランスの良い献立と水分摂取を行い、適度な運動を取り入れて予防に取り組んでいる。また、医師との連携で必要な方には便秘予防薬を処方して頂いている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね週に2回以上入浴して頂いている。介助が必要な方が多く、本人の希望する時にいつでも入浴していただくことは困難である。入浴時は、声かけをして、本人が入りたくない時には時間をずらす等を行い、本人の希望に合わせている。	原則週2回、午後1時から4時半頃までに全員が湯船に浸かり、入浴している。夏場は、シャワー浴の利用者もいる。入浴拒否の方には、順番を変えたり、清拭に変更することもある。菖蒲湯やゆず湯などで入浴を楽しむ日もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた時には、居室にて休んでいただいている。また、昼食後等には、時にはリビングのソファで昼寝をされることもある。本人の体調を考慮し、できるだけ本人のペースに合わせている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状に応じて処方される薬については、医師と薬剤師からの情報を全職員で把握し、服薬の支援を行っている。また、症状の変化を見落とすことなく、状態に変化があれば、医師や薬剤師に報告している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや洗濯物たたみ、配膳や食器の片付けなど、入居者様の能力に応じて職員と共に行っている。また、趣味を活かした共同制作や書き物、百一首やゲーム、言葉遊びなどを行い、楽しく過ごしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の庭に出たり、職員が付き添って近隣を散歩したりしていましたが、皆さん歩行困難になって来られ、外出が厳しくなっているが、出来るだけ美容室や食事、季節の行楽には外出している。時には、家族との外出も支援している。	利用者全員が裏庭に出るのに20分位掛かるようになってきているが、出来るだけ外気浴をするよう支援している。気分転換に外出は必要と考え、美容院、商業施設などへ出かけるように支援している。桜の時期や秋に、般若寺や公園(フローラム)へ利用者全員車で、お花見に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、現在のところ全面的に施設で管理を行っているが、買い物に出かけた時などに欲しいものを買って金銭の支払いを行って頂くこともある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が希望すれば、自由に電話をかけてお話しをいただいている。また、ご家族から手紙が届いたり、年賀状や暑中見舞いなども、書いて頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせる工夫をしている	窓からは、庭の季節ごとの花や木の様子を眺めることができ、民家を活用しているため、生活感を感じていただける環境となっている。また、入居者様とともに季節毎に貼り絵や工作を飾り、季節感を味わって頂き、居心地の良い空間づくりを行っている。	居室4室は2階にあるため、階段に昇降機を取り付けている。昼間は1階のリビングで過ごすことが多く、窓越しに見える手入れされた庭の木々や花々が心地よい環境を作っている。トイレや浴室の清掃が丁寧で、清潔感がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはダイニングテーブルとソファを置き、ゆったりとくつろげるようになっている。TVを楽しむ人、会話を楽しむ人と、それぞれが自由に居場所を選べるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族と相談し、使い慣れた家具や衣類・小物や今までの生活の中で大事にしてきた物を出来るだけ持ち込んでいただけるようにしている。	ベッド、エアコン、クローゼットが設置された居室にはタンスや机などを持ち込み、家族の写真を飾るなど部屋作りがされている。畳敷きの部屋もある。居室のクローゼットには、常時使わない小物類を収納し、整然とした空間の維持と安全な移動が確保されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー構造で、2階へ上がる為に歩行能力に応じて階段の滑り止め、手摺り、昇降機を設置している。トイレや居室のドアにはそれぞれ、ネームプレートを設置したり、わかりやすい環境づくりを行っている。		